梅のうちゝ

右

やうつと称代のいまへ本花岡郎姫の御名ありて
後あるこゝろ今ゞ素盞乃詠あり一首ひけり
天下皆素盞乃仏仏の御勢ちりのまを
くりるゝ趣向のとき遺ちりゝ或い高間寺北
児を感そ効あるを西の對り去年を思ひ
おい初郎の奇乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃類ゝ
所ちりゝ乃ゝ乃ゝ地のるよゝ事梅雨ぬ
鼻祖の名称を和向の名称よつゝめ北の名ひ

早稲田大学文学部図書
特定資産
鷲英末雄
35-09380

[illegible]山[illegible]師[illegible]成[illegible]
中[illegible]の鐘[illegible]
長池のあらふ[illegible]
[illegible]辭[illegible]制札[illegible]
[illegible]邵康節の石[illegible]
青梅も布袋[illegible]
[illegible]同僚の林石[illegible]
[illegible]めあ[illegible]の[illegible]を集め

[illegible]樂[illegible]
みちのくの[illegible]
[illegible]ねもあり[illegible]
[illegible]刻青の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
寛延三[illegible]弥生[illegible]日[illegible]

東洋文庫

ぬのつけ袋かりそめ

浮世あらしの神蝶乃袖

鸞長

知石

曲水宴

月晴

物之

咲梅の花を戈配和歌五幣　江流水口

名ハ小屋だ〻首尾の合鯖　指月堂

鯖へ牽〻を振〻まう絲かな　東武　朝可

て嵐よ紐を泛ぬ弓ゆく波　仝所　芝九

紅ハ澄清ふ音ゆ代のるが水　水口　文石

風鈴の雲枝ふ〻そぐ沙　東武　其環

切揚〻舟よ庭五月貢　水口　真樂

仝　其倫

堅固

[illegible]　野鐙
秋ゆくなる君の乳房　雁　糸乱
久菅は数〻そよぐ　移り香　意蝶
入相の間の忘れ　[illegible]　莞尓
夜の山ろく　春の[illegible]　紫水
二心の塵除かぬ君ぞこはしら　其流
[illegible]　[illegible]　亀遊
歳暮も用いくろまぬ　[illegible]　簡之
篝火ぬぬてみたる仙人　桐籬

絶景と軽〻流れて降あがり　落葉
百日の威勢　[illegible]　雀樹
律よりぞ百頭　[illegible]　恒怩
瀬の音　[illegible]　如柳
奴[illegible]　[illegible]　路睡
御[illegible]　[illegible]　如泥
二[illegible]　[illegible]　忍
[illegible]　[illegible]　玉尋
[illegible]　[illegible]　山鳥

嵐波　全
林遊　全
有隣　全
池田　全
云爾　全
梅枝　全
糸田　全
紫計　全
鬼声　全

引　全
南水　全
羅陵　全
花橘　全
數月　全
長賀　全
宮水　全
重扇　全
蔦翁　全

柏板乃黒いつ帰ル蒸炎　笠帆
天井ニ二尺ハ[illegible]澄て　冨士
泌る小鳥の　瓜蒸りて　甲子
焙ま乃鹿向ニ鹿の狩こん　尾木
嘆まるいち　掛ることで　水尺
色藏る高ま高の青ハく　遊戯
去ゑの御千乃土産ハさ　御　浪静
むまれ水高の第ま狭く　一口
明屋ま樽ま　夢耳以毎　吹等

学校ま拾ハ拾ハ拾ハ　琴枝
嗤あてハ　嚢中ま肌　兎口
玉磨陽ま毛板の角か減　希荅
ゑゑの二ハ　米海ハ山ハ　安石
森ま神ま　行ま乃珠数ハ　堅席
新柄ハの帆ま難刀ま　漆入　和卜
綾ま黒(クレハ)服ま和ま　海本　加志久
憂ハ高ま教柄ま　孔ハ琴の色　西
　　凍河

[illegible]く掩身
[illegible]の世[illegible]
身[illegible]浮き沈み[illegible]
見[illegible]哭剥立咲
[illegible]孫
[illegible]百余九十九振 蓬茶
[illegible]茄子漬
[illegible]出容辨
[illegible]

全 一仙
全 志計
全 伽陵
全 嵩青
全 遊口
全 我耻
全 友枝
全 如水
全 誰我

[illegible]も[illegible]も[illegible]のもの多
琉珀[illegible]ん 痺 棟 猷 芍也
不破の身奉かて[illegible]紀約 赤脚
家も[illegible]穂[illegible]育葦原 其一
三遷の恩ハ露[illegible]雫迄 不數
[illegible]千里を載 未得
塩耳[illegible]実花を踏[illegible] 鷺雪
切[illegible]実の雪 沾木
[illegible]曲[illegible]春[illegible]傳 辰時
志流

義経の寵愛小夏が事　尤右
三男ハ三位の遺跡を嗣　玄話
聾耳ハ貴くこそ　玉伯
あい里ハ本弥四郎が奥　三位
御免蒙衣てはてはそも　波水
聰ハさこそ　泉垢
まいらせいと大役若　如実
良茶ハ強き病を祇と一方　小紫
微塵微塵　如雲

思案こそ命毛てゆるし給ふ　此君
蝴蝶の曼陀羅の綾取　憐霞
羽衣乃曲幕のうちより歌く鬼　小蝶
昼寝ハ夢の近分　達水
諌言ハ憎き　産乃前　黄土
諌言ハ火ぬ火　而田
曲り屋ハ小歩あるの狗　黒凡
秀ふあるを　帝子　警文
配所てハ忘ぬ　郭公鳥（ホトヽギス）　霞外

價ハ復爲さる景色　烏伯

花守ゝ梅守も世乃盛り　肌玉

禮義安全　琴長久　立葉

發句

亀の這ふ庭かく色の梅の花　而咲堂　練石

万物や神代威の梅の花　百葉家　冨鈴

美しかりしあるうるとも梅の花　松門亭　普求

かいまくるや小川のあらゝの梅の花　京　沢名

砂生家の庭の清し梅の花、　文瑞

一梅乃枝もしなやか梅の花、　松仙

元文四の冬　江州辻村の郷師千梅ゝ五十韻を求　次乃二十五章ハ西湖坂本都不覚の遺作なり　大上紀川せの色に咲出るを絵よ此事を神の寸毛の方あく路失せり筋を以て筋といふも故ゝ有て所へ軒を出せる所へ軒を出せる所ゝ忘れ紀ふ　作者云　一ゝ和歌うせるゝ初梅の花　林石

見渡すかたらや　梅のうれ　但馬生野　袋和

人ハ花　神ハ梅　後乃梅の花　東山双林寺　時彦

笑ひ　我香も　梅の花　京　松甚

神ぬや　ぬ　一輪　梅乃花、　金石

百韻　冊刻山家従江府

やり梅もいとうるん　花の主　流桜

日ぬと　咲く　梅さけ　ぬとめ　千之

半橋よ　葛籠　出　雪中

いとか　ぬ　肩の　拭　かせ

ちらちら　あちら　流へ　撫歌

月見の　家ゝ　二人　ぬ　尾沾

百韻乃　席を　部　ふ秋の　百之

ぬ糸の　梅　ぬ　ぬ　御凡

薪賣　形も　都　ハ凡　雅　別糸

ゝ里乃　中ハ　流　水声

馬　駕よ　宿ハ　振　侍　糸り　青雨

赤　ぬ　れの　ぬ　ゝ　れ　玉尾

なさしハ玉れ蛍下戸もなし　芝花坊
あんてゝ川程く海のゝ世ゝり　藤々
此庵の孤屋ハ四方をたゝして　雨夕
むしを聞く　白の汗ゝれ　荷水
里人ハうつも石口れ苔の花　雪邨
月ぬむ池のあるを添ゝく　かや
隣ゝ湯屋の足も寒ゝれ　雪川
暖ゝ多ゝや内の佛ゝ　一之
寒ゝも咲ゝに花を少ゝり　柳葉

永ゝの頭を琴を弾く響　水邨
八京ハ一京ゝ樹かゝみ　等校
春の湯ゝ漕ゝ　雪簧
鶯秋も振ゝ舞ゝ國めゝ　松露
尋ゝ寺ゝ又ゝ　妻戸
ワゝゝ郭ゝ卯ゝゝの古ゝをゝゝ　琴糸
枕引ゝ　ゝ　の酒　竹雪
ゝゝゝゝ雪の浮の隙の先　和月
こゝろゝゝゝ　ゝれ下ゝゝ　左右

江戸名所稿巻之五 目録

ありたの水しるべ　玉志
何時来を鞠蹴る所の二三人　芝棘
土黒　山〻月の出る頃　女民
旁の方に来れ社の月の高く　鈴水
菅這ふ雲を少やあるん　象亭
むかしをさるをとをとを偏雪　柳几
玉所〻の云契　田水
鶯子小星れこるる　睡夏
源〻亦　垂蕚

扇の下あるかとゆるみ　黒詫
むらひあふ義抜るれ　泊十
都屋と吟新今のさ　女綜孫
見ゆるはちるふ蓬のたをやさ　女丹人
祈をちるゝ中　赤坂の町　秋鳴
松巴の中ふさ〻ハ咲うれ　湖千
先も少かうと延る糸猫　連秘
憂旅の祈むるふ月も永く　亀水
汚ふい新夜　恋乃月かさ　萩几

何も物ゆゑ見めのまれ　安

寝覚ゆゑ　朝霞

三

弓張月　牡鹿乃角氷　山ト

他の流れを伝ひ　玉流

黄なる金蝶　袖よ入さかり　南枝

天元の誘引　晴小乃痛　鹿嘯

門子弼　押を毋　あき清水　一枝

三度笠　恵ミぬい也む　虎風

黄英　鶯啼　把一枝雪雀　秋交

寄掌　ゆり合よう　求芳

奇ひ　奇ひ　可全

神代の世　つさぬ　可候

正京八　刷　孫　嬢哉

秀一人　の　物　風　菜　波光

月　彩曲　姫　濱石

加　濱　め　麻　不中

三ウ　裏　衣　根　松寿

情　恨　ふ　ハ　松遥

中納言殿ハ法眼ハ法眼

和歌を揮毫ス　恋の使　紅　芦雁

導の師ハ芳しく紀貫之卿　雪雁

屋乃太郎や　京ふり捨　駄鳴

ちんのうに不二も霞ずまさく　友樹

しいさうず　紅ゐ絶わび　蟬谷

通称　吸筒の　詠ハ比色り　姑的

月をよ鞠ちらむ　波　時中

岩滴　登　嘯　玉ハ義ふ　高計

如江

国栗の實　拾て　新　知還

苗代　血ぬる　御代ぶ　素絢

穂　ふて　面　月　青沙

大黒の　ちり　庭　箱　三益

鬼も十八　伽　羅　而沐

土器を　祝ふ　宿の　柳　危言

中しの　雑矣　侍　宿の　冨　一得

縄　秋　篠　二五の　春　八凸

奉加　帳　お塔　帳　八凹

論人の情にて
多孫乃猿も 間日不休
夜磨示玉と 投出股乃雉
民の気情に 穂の高きを稲
独すむ 秋浮雲の面
鄙の里 渡乃ちの浦
投投と 香を月の立さゆる
高きの 神さ紀千木を嶽
八の耳かも 猿乃舞 哲ひ

沙流
鷽校
鶏校
晨汁
孫歌
林多
輔仁
好山
卅

袂の多 弱引ゆる
波彩よ 寄れく 神命 光小海
見てさへ 痛き 動南の 美
大津 論の 笑 利 ちて 義し
弓を さや 中小 矢筈 茅小 猪
一かも 笛守 男 花 歌 里
扇 ゆ 浪を かて 浪 う 鶏 の

敏
盃松
穿花
千泉
牡鶏
牡良
淳湖
秀月

江州比叡山

花赤山

春ゝ雨ハ垂ゝ月ゝ梅の花

一角

佛ゝぬ世ゝ此かまれや梅の花、

花蓮彩

青人の短冊もあり梅の花、

一橋

代ゝの春人ゝ絵しし梅の花、

西素

素ハまゝ紀ゝ百ゝ梅の花、

西光

姉法を詩やゝゝ梅の花、

西得

春ゝ風春ハ四方ゝ梅の花

自然堂

雪の中佛ゝ梅の花、

春石

垣ゝ米ゝ酢をかゝ梅の花、

久成

ちゝいちれ白ひハ梅せ梅の花、

抱南

ゝ揚ハ室ゝ一茎ゝ梅の花、

白象彩

梅ハ香をかゝれゝ

西湖坂木

都不覚

至ゝ香かゝを四ゝ梅の花

東武

白雪のゝ代を高ゝ梅の花、

猪辛

狸寝

咲分や二人一乃梅の花　大坂　義弟

嫁と姑ふたつ〳〵梅の花　蒙彈

琵琶法師鬼にたゝるん梅の花　江戸彦根　文吟

伽羅ふりやさゝやつよふ梅の花　同南橋堂　勝生

白壁に月如の月や梅の花　同湖陽堂　夕翁

白ゆふる郭ふゝやこれ梅の花　同須恵村　自然堂

小町さへまをしく〳〵梅の花　相州浦賀　如貫

月数に新よそひ寝の梅の花、　嘉更

三日月の裏を歌しや梅の花　柏山

雪の礼曲　ふゝり　梅の花　白桃

あゝ咲池の水やや梅の花　上總　井蛙

日比谷の白ひそれ梅の花　西

物ゆゝしや仏菩薩や梅の花　下總　坂平

秘毎に〳〵てふゝ梅の花　房州　麒麟

星ふゝ星あゝきゝ梅の花　奥州信夫　瀬上驛等與

蒼ゝ青い冴ゆる梅の花　同福嶋　桐門

百韻　南山布留

星降て竹の香多し竹の窓　丹生堂

今年の時雨し山深の書　青牙

旅荘い野辺の行方の霜乱れ　不求

石の面の裏日表多き　桃花

書物の跡を代くの庭分浪　松雀

仮寝にし安しし伏る一ふし　李袖

所金のおと衛を強ふ月の弄　蕉鹿

玉の汐干ハ菓の花多　葵向

千時をの業なる古仏みた　嵐竹

たのしくもくり生のせ伝　一系秋

母房と云ふの名白梅　里夕

節めて時うつ来て見　女花夕

来るものの時うを見給ハ　机谷

常小云業の　不白

玉千年あるて流よ光あつく　岱水

寺仏所せ　散月

我寺時幸多ぬ色かな　桐絮

児の和韵八月の對　花月亭
秋の初の恨とやめりとぞ聞　雪宋
ものの地のみ[illegible]　貴嘉
うるむ月は花も寒うり下る露　和夕
山雲もまた鹿に正緊　花陽
清境のあけの帝せんと地面に　方洲
寒し昔は夕月を庵ぬけ　旭柄
天籟は掛て中ふる巖子　桃牛
むすびて青ハ十月の壁　其山

所方の面に後も皆はれ　冬卿
窓夫の[illegible]　晴る雪水　孤蘭
深せるかと[illegible]　東柄
時を待つや　所馬く指ス　三吉
あしれるハあつまりてふかし　東嶺
不老不死とて別後て[illegible]　柄雄
柳条　嵐を義る上ず麓　井嵐
鶴て晴る三條　月雲原　冥月
やゝ[illegible]　柄之

頃の意なり　咏本多なり

涌泉（多の意なり）　泉水

格子　門　抛り物　物

折りけて格子　兎の行儀　桃水

なる矢竹の邪魔　邪魔　的子

前を過ぬ上なる矢竹は倚倚乱れ　あ泉

鶯鳴　沸物　河平

裏参て　暮江　遠磨　東水

井の字かりなる門の家まる　岩山

塀の隙　角松　霄の月　遠浦也

頭落る　松の神　へる　物　物屋

鼠頭の盛り　を　次　如　兎口

同字掛て　ゆ　む　法　賀寿

佛　なる　の　花　鯉　窓芦

芝を　なる　美　文入の字　臼杵

市の字　金　く　所　重　芦帆

三字　寝　る　字　野　土器

布る　流　帳　る　帳　茂　字物

唖々として出でゝ礼る大頭　　元年

遅刻にして夢みる夏の蓋　　中琳

寄尾戸へやとて雛菊　　其言

開いれく寄れく寄を引き曲り　　不言

月見てうゝ郷と成る里　　瓦逢

酔胸の日ゝ皆人を待つ　　孤松

待てハ所帯を逃へハ搭く　　池鯉

ゝ夜の濤をハ月ハ雲の上　　李紅

れくはやとの世ゝを　　李林

きこゆに酒の酔の神ん　　李月

昼をハいくゝ様家乃元ゝへ　　馬長

たハれく時毎に傘の上ゝ　　形書

夢菜整古ゝ八菜の夢　　志子

吼ハ時はやさのをゝを　　三表

主の気九をゝ　　瓦口

家ものゝ新年して通ひ始め　　庚物

刀ゝ寄て姿　牡丹　苔菜　　只子

一盃の酔て戸窓傳ひ　　雅臭

月の鏡のうつるをしるべ
製法り器のへうの墨
筆にまかれる
はうをり穂を出すかのる
仕を形を安く山の
竹の花り雪の
絲をり強さ天さかる
はしかれ人のさ猶
光はしるかの奥南上

峠
丹
三
林
久流
久安
柄
凡
林ヶ

参分りに大ちを
千尋の紙のうつる紙
百日を前日なりに波
ちのへり人
意ハちをの
鳥ちめる鶏
八の戸を居
を張の弓備
耳聴も形

奏柳
丹産
狸新
南牧
山
山戸
谷張
弦宮
久里

参分りに大ちを
千尋の紙のうつる紙
百日を前日なりに波
ちのへり人
意ハちをの
鳥ちめる鶏
八の戸を居
を張の弓備
耳聴も形

一の宮長ハ仲の汐さい　五意
菜まく月ハ的ゝちゝ　五意
松坂新町庶平踊ゝ　ゝ子
三人め後家おろし秋の雨　能來
龍服肉を文王の蒙　熊谷
ん吳を変かゝれハ丁、并　頃入
自を動ゝ作ゝよ為ひ気遠　儀子
的作ゝ成ゝ沢たゝの陽　市子
葛屋の面作ゝさゝたゝの京　三流

青に人千金ハ色花乃宿　南川
菊美好加殺千貫の堀入　実句　凡老

愛句

室町や六十余州柳の花　江州多主
神の代の白ひげん柳の花、　亀抱館
雪好神ゝあるゝや柳の花、　諂鹿
切ゝ屋く開炉裏よ咲せ柳の花　藤丸
　　言松彩

うぐいすの　梅の花、　不卜堂
春ぞ　鶯　足山の　梅の花、　岩竹氏
あるよ　雪の　雪と出る　梅の花　黄雪舎
撰集の　宝　咲をせよ　梅の花　和志船
雪よ　あるあたしらな　梅の花　九室舎
白ひさを　雪　梅の　武蔵羽生町　一巴
山いい川白ひる　暮る　梅の　武鈴
坪　梅　いえ　咲　梅の花、　柳角
三　白　ゆ　白　梅の　海水

東　梅の花、　稲山
雪に　雪　梅の花、　二嶋
雪　白　梅の花、　流水
訳　和　梅の花、　池柳
ゆ　雪　梅の花、　白竜
惜　ゆ　梅の花、　一瓢
雪　中　雪せ　梅の花　相州　大谷舎
神　梅の　白　梅の　西湖領家　素吟

蔵馬集の奥小書の部

扇面せり

[illegible]　梅の花

[illegible]　四方ふぬもの　山城淀　重年

[illegible]　梅の花　京　知水

梅干の歯も咲　梅の花　江戸南川瀬　玉子

雪の袖も香ハかくこそ　梅の花　上総　某

正月を神の御やの　梅の花　江州彦根　蛭子

色も香も蝶ハ知　梅の花、　凡子

[illegible]　梅の花、　曰弥

[illegible]　梅の花、　柳水

[illegible]　梅の花、　梅雪

[illegible]　梅の花、　花山

[illegible]　梅の花、　仙木

[illegible]　梅の花、　湖私

十余町香を配　梅の花、　鶴松

別振　彼も至　梅の花　豊前中津　才松軒　知友

ひるゝ中小学にうゑし梅の花　相模俳賀　露更
皆碎て雪にうゝ曝りて梅の花、　梅水
宮人の背の海や梅の花、　白桃
梅咲や名所拾しの梅の香　京　涼花
梅やこゝに言こゝ梅の花、　排水

元日のうた

首戸口の梅よ新らふ雀り邨、　玉芝
恵毛さくや蓬屋のこゝれ梅　四青

等梅寺も盤ゝそ梅の花、　百尺
ちるく梅ゝ埋ゝ東る、　丈士
神垣ゝ去さうそん梅の花　京　谷田氏虎嘯
三月のちうを梅よ名ん　松前　利山
ま乗や香さう梅の背の梅、　居安
恵なくゝ小ちんゝ梅を赤実ゝ、　都角
梅ゝ人ゝ梅よ梅や蔓車、　才車
ちるゝ岩梅流の扉を　梅、　洞元

物思て一句書しに　英木　松丶　弁々

やり分ける所や新の秋の系　文和

ゆるやかなとそれて物の花　肥後玉名長須町　曉烏

世の憂をちらしく作り物の花　東武　庭仙

摂門ちゆ一ハ心うつり物の花　桃花

咲かくれ来て物の影　浪花　桜山

物思やさのくいうれぬ夢の太　浪列九亀　夕郭

ちら物よ仏ちる花や寄や　京　芦水

五十韻

ちる物ちちちちちの盛り　犬石

草やくくふ　蹄ちる墓　鐘　涼花

引ちを張芳尾ちちちく　都牛

ちく面一き八春なれや　玉芝

百性ちやいちの待海　英九

くちちくくのちく矢吉　犬士

町盃ち竿茨ち音も芳月　押水

茨ち　芳茨　執筆

[illegible]めの風　花
京の年[illegible]　石
業平と[illegible]　昔の男[illegible]　芝
[illegible]　牛
かるかと[illegible]　士
寺[illegible]　九
[illegible]　石
[illegible]　水
[illegible]　牛

二番草

根株を[illegible]　猿去引ら　贄　芝
[illegible]　九
自然[illegible]　石
[illegible]　花
[illegible]　牛
二
[illegible]　石
[illegible]　芝
[illegible]　牛
[illegible]　石

氷

花

芝

丸

千

芝

石

水

花

土

丸

石

水

芝

石

花

牛

丸

青々と新しき苔のあとかなしく　芝

茶湯くさき小ぶりの寺　水

緑園をこめる樹々の冥鏡　土

清垂乃人の手暗みるしん　花

咲を待ち乃ち寂かあれや　石

秋のこれらも　かしの苗代　芝

風蕭々吹垂乙ろう　物の花　口別所川せ　亀石

蕭々ろう　物の花　京根　都英

香ゆかしく八重やいろ　物の花　京　白宣

四季やまをしろも　物の花、　里雀

咲日ろう　教ろう　物の花、　先志

元文四年五月十日於羽松寺文阿弥奥行

松をあるとて百年かの月を清の花　知石

思ふ　ハ扨も筆すさび

川樋堂　抹石

田舞　貞依

竹今も　練石

器の海しめ　隆志

山間の　丈石

紫晩　知木

あるゝ多あるとなり地し芋畑　荃石

物洗ふ腥喰て　芋中

絨蓋も神の力の絞り賛斗　市貞

人目ちらむ午時と杵れ　執筆

海を経河口なる竿うせ　竜谷

烟りゝ杉木の根ま〻ゝ元　信水

ちゝ咲ゝ孫の虞ゝ潦　信舟

鶺鴒ハ　ゝ勢ゝ　ゝ　拝　八百屋

苔一面　ゝ系ゝ　百一

戻馴のさし色ゆめるまで先　律丸

三の数鏡よ星河りゆめ月日　設謫

秋立の気をあし志らう髪茂迄　西巳

風しめ花とあゆめてこう梢　芳亮

契浅りゆこ家りしい若草　沖成

大長宗あ川こう京とこう新兵　一四

人形の襟なをと浪豊坂　和石

伯母の子殺めつり志う是日去ゆ付　千冬

高乃なしい目の良志出来ゆう　千外

入梅よあしぬよめい出咲のまゝ　素東

嫂をおりあ衛しく繍絹　花里

巴去帳とろ川きくれ生死玉　亀丸

をのゝ住家もそよし秋風　春㐂

踊場も二町四方乃八代目　政人

奈良を旅しき唐服錦　君李

新月の見く川おれ川粉妹　抄石

位牌を忌くいぬる信ゆ　知石

縫殿よ蝶のてまりし庵みゆ　絲石

[illegible]　貝作
[illegible]　文石
[illegible]　隆志
[illegible]　乾堂
[illegible]　荃石
[illegible]　芦中
[illegible]　竜谷
[illegible]　竿秋
[illegible]　一四

[illegible]　津風
[illegible]　星水
[illegible]　八百彦
[illegible]　芳亮
[illegible]　練石
[illegible]　千冬
[illegible]　仲成
[illegible]　亀九
[illegible]　千外

あふみ路にて　指月こゝろ
隆みちをして　歌かな
ぬしゝぬゝ　きみのゝ
猫の手をつゝ　呼よ
登りしかぬ　関寺の勝
俗ゝしい酒を　孔いふ極
的意十　遠後
ゝ俗ゝ　磬
偽きて　久ゝ

素東
和石
政人
君李
竿秋
春亀
林石
星水
夫石

月既ゝ　吸ゝ
庭ゝ　茅
鄭せ　尼ゝ
蛛の　小鼓の裏
調合を　謙
生所の　雅ゝ
和ゝ　茅
あゝ　和泉の一二丈
ゝ高　巻

登石
律凡
知右
芦中
竜谷
沖成
貞佐
鼓峯

蟠牛の弓く夜吉のしるす。
春の雨と煙草入れ里ゝ雨
戸火の石川しるる ゆゝ立
名月や巻せ仏千の字八巻
恵ゝまゝ めの春 秋建貸
蟄ゝ ゆく命 ゆ花の枝
うゝ鳴の芋布孫かゝ ゆゝて蛙
久ゝ振 雲ゝ碎 ゆく蛙の雲
命 ゆる 蛙 ゆ 蛙の 雲
恵ゝ ゆ 蛙 押

練石　千外
花里　一四
八百彦　鍊石
芦中　芦中
竜谷　沖嶋
文石　乾峯
隆志　竜公
千冬　君李
奎石　芦亮

恵ゝ ゆ 蛙 鶯 員 ゆ 頭 俗
石のうゝ ゆ ゆ 鞠
指つゝ ゆ 蛙 ゆ ゆ 張
神 ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ 芦
幽 灵 ゆ 蛙 ゆ ゆ ゆ
ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ 蛙
のゝ ゆ て 春 の 中 ゆ 竹 の 紅
瓜 ゆ ゆ て 春 ゆ 津 院 ゆ 猫
ゆ て 蛙 ゆ 春 の 泉 ゆ ゆ ゆ の

秋の淋しさ千年の山かげ　貞依

紫野賜よりしら張の庵　乾峯

写真よ三味線の世をうるめく　知石

あるかりしうるはる出る業　津凡

滿ちうつる淵水かくんなり　星水

松ちるは物のかなしう竹　八百長

覇王樹咲て濡れも咲　林石

佐い方よ書て恋しく毒の和　文石

諸國の飛御うつみ蔵　豊秋

大名気一万人を花の友　隆志

宿を祝して今夜羽ばたく　竜谷

茅人万自然　佐庫よ迄る

頭叶へ万あもいまを蔵る時　隆志

ちや張を花猶の咲ち孫　両巴

茅白髪家外賀しき

百姓や彩樹八千代の撫ち末　柳波

茅ちや茅も茅ちへよ苗ちう　花里

甲良氏大集の住延よおう。

[illegible]田の梅ゝ女　津凡

香ゝ神のこゝろゝ喰ん梅の風　凡妖

梅ゝ香や紫ゝ馬よ[illegible]てゝる　[illegible]三津吳　紅五

歌仙梅の花獨吟

香ゝ月出ゝ香ゝ[illegible]ゝ梅の花　林石

[illegible]ゝ敬ゝ色め　ゝ[illegible]梅の花

咲分る[illegible]ゝ朝[illegible]の梅の花

[illegible]ゝ八重ん也早梅の花

月[illegible]ゝ[illegible]よ[illegible]の梅の花

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ梅の花

[illegible]の[illegible]ゝ待ゝ[illegible]梅の花

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の梅の花

長[illegible]ゝ[illegible]ゝ梅の花

[illegible]ゝ[illegible]ゝ梅の花

大[illegible]の一を[illegible]ゝ[illegible]の花

[illegible]ゝ[illegible]ゝ梅の花

人妻うちなびく所ゑ梅の花
柔らの紋手ハ京梅の花
白粉とおもふ[illegible]梅の花
鶯の權[illegible]梅の花
[illegible]の月雪間と沙ハ梅の花
犬の足ゑ四[illegible]梅の花
二
法華講戸にかかるの梅の花
ひかく菓子実梅の花
干物ハ陰くたの[illegible]梅の花

大文人の[illegible]ふ梅の花
九重と花も[illegible]の梅の花
[illegible]れなりけこそ夕梅の花
清月を法[illegible]盛の梅の花
沙庶の沙絶計梅の花
塩竈見の白ひ[illegible]梅の花
[illegible]人家の[illegible]梅の花
振京の二度の雪ひ梅の花
胴をうゆ[illegible]の梅の花

一童子千童子梅の花
今ゆくとしとなる梅の花
先宴春ハ来る白梅の花
ちるとなく うぐひす梅の花
花ぬすの咲て吹る梅の花
山城の云 白梅の花

夫十二月孫の第十有好長ちりれ
第人第今自ちり既十有五年ゟ及ちり
城取ぬ〳〵ちゐいとか第川乃水
双〳〵の塞を咲ちゐ人なぬのを
ちるちり猿猴ゟ月を蝙蝠ゟ
已ゟ沢ちゐ虎の威をかりしもの色
干和の玉ちゐ人ゟ咲ぬ色し
花咲宴ちり時ぬ咲ちゐ第ゟ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

干時寛延三庚午余

才松堂

林石